

南伊豆町竹麻地区における
津波対策の方針

令和6年3月
静岡県・南伊豆町

目 次

- 1 はじめに
- 2 地区協議会意見のまとめ（津波対策の基本方針案）
- 3 津波対策の方針（結論）

（参考資料）

参 1 検討経緯

参 2 南伊豆町竹麻地区避難地図

1 はじめに

静岡県では、津波の到達時間が短く、沿岸域に人口や資産が集中していることから、甚大な津波被害が想定されています。このため、地域の特性を踏まえた最も相応しい津波対策を「静岡方式」と称し、市町と協働で検討し、ハード対策（施設整備）とソフト対策（避難対策）を組み合わせ、津波被害の防災・減災を図ることとしています。

特に伊豆半島沿岸では、変化に富んだ入り江毎に人々の暮らしがあり、津波対策が観光や漁業等へ影響を与えることが懸念されるため、本県では10市町を50地区に細分化し、住民等の参画を得ながら、取り組むべき津波対策の方向性を検討することにより、地区の津波に対する安全度を向上させることとしています。

当地区では、地元町内会や関係機関・団体等の代表者で「南伊豆町津波対策竹麻地区協議会」を組織し、利害の異なる関係者間で話し合いを重ねることで、お互いに理解し合い、地区として最良であると考えられる津波対策を検討してきました。

平成30年10月には、当地区についてハード対策を進めるという方針を報告する「南伊豆町竹麻地区の津波対策の方針〈中間報告〉」を公表しました。その後、竹麻地区の湊区では「弓ヶ浜防災対策検討委員会」を組織し、堤防の整備高に関する検討を進め、地元合意を得るに至りました。

今回、静岡県及び南伊豆町は、この「南伊豆町竹麻地区の津波対策の方針〈中間報告〉」及び湊区の地元合意を尊重し、地区の実情を踏まえた総合的な津波対策の方針である「南伊豆町竹麻地区における津波対策の方針」を策定しました。

静岡県及び南伊豆町は、今後、本方針に基づき津波対策を推進していきます。なお、本方針に記載の事業の実施にあたっては、予算の確保を含め、国その他関係機関等との調整を踏まえ実施していきます。

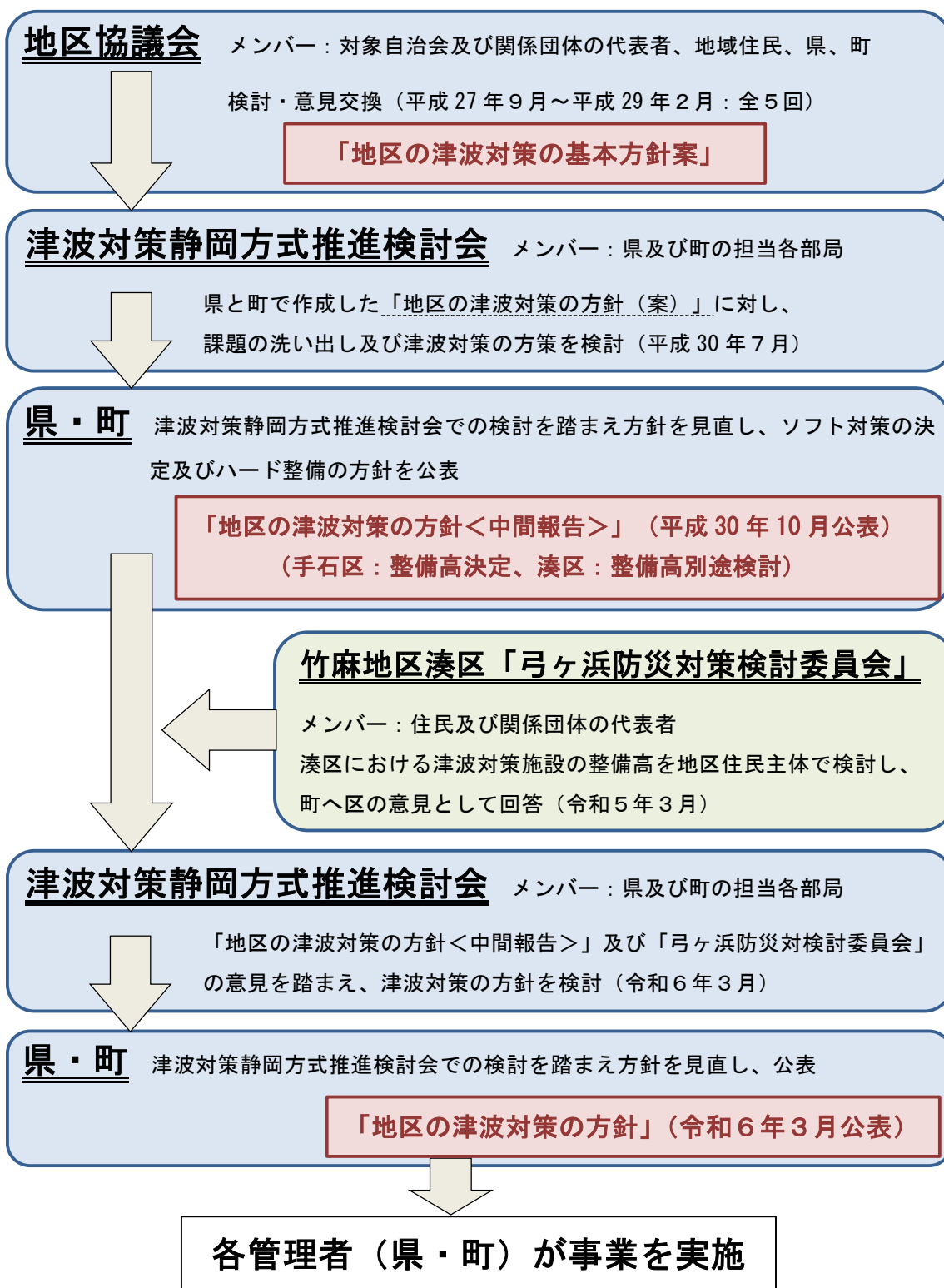


図 竹麻地区の津波対策の検討フロー

2 地区協議会意見のまとめ

南伊豆町竹麻地区における津波対策の基本方針案

- あらゆる可能性を考慮した最大クラスのレベル2津波に備え、住民や観光客等の迅速かつ主体的な避難を最重要の対策と位置づけ、避難を後押しするソフト対策を推進する。
- 比較的発生頻度の高いレベル1津波に対しては、防潮堤嵩上げ整備を実施する。ただし、施設整備にあたっては、観光業を中心とする当地区の特性に鑑み、景観へ配慮した構造、外観とする。
- 防潮堤等の高さを超える津波に対しては、避難によって命を守るため、「南伊豆町津波避難計画」を基本として対策を実施する。
- これらの津波対策については、将来のまちの姿を描きながら、その方向性に逸することの無いよう、地区・県・町・関係機関が協力して実施していく。

なお、静岡県地震津波被害想定等が見直された場合は、上記基本方針案についても、適宜見直すものとする。



手石港
(令和6年3月時点)



小稲漁港
(令和6年3月時点)

3 津波対策の方針（結論）

静岡県と南伊豆町は、南伊豆町津波対策竹麻地区協議会及び弓ヶ浜防災対策検討委員会でとりまとめた「南伊豆町竹麻地区における津波対策基本方針案」をもとに、「南伊豆町竹麻地区の津波対策の方針」を作成しました。

南伊豆町竹麻地区の津波対策の方針

1) 避難について

- ・ 静岡県と南伊豆町は、あらゆる可能性を考慮した最大クラスのレベル2津波に対し、住民や観光客等の迅速かつ主体的な避難を最重要の対策と位置付け、「静岡県地震・津波対策アクションプログラム2023」、「南伊豆町津波避難計画」等に基づき、地域集合避難場所や津波避難タワーの整備等の避難を後押しするソフト対策を推進する。

2) 施設整備について

- ・ 南伊豆町竹麻地区では、比較的発生頻度が高いレベル1津波に対し、津波対策施設の整備を実施することとし、整備にあたっては、観光業を中心とする当地区の特性、海岸線の景観や利用に配慮した構造、外観とする。
- ・ 竹麻地区湊区では、地区合意高（T. P. +5.5m）で整備を行う。
- ・ 竹麻地区手石区では、レベル1必要天端高（手石港側 T. P. +8.0m、小稲漁港側 T. P. +7.0m）で整備を行う。
- ・ なお、施設整備高を超える津波に対しては、「静岡方式」の基本理念に基づき、ハード対策とソフト対策を組合せ、地域の実情に応じた津波対策を推進する。

3) その他

- ・ これら津波対策は、竹麻地区、静岡県、南伊豆町及び関係機関が協力し、着実に実施していくとともに、今後も新たなソフト対策等を検討し、避難対策の充実を図る。
- ・ 静岡県の地震津波被害想定等が見直された場合は、この方針についても適宜見直す。



竹麻地区 区割り図

(参 考 资 料)

参 1 検討経緯

竹麻地区では地区協議会設置に先立ち、平成 27 年 10 月 15 日に南伊豆町で津波対策講演会が開催されました。平成 27 年 11 月 11 日に第 1 回の「南伊豆町津波対策竹麻地区協議会」を開催し、会長を湊区長、副会長を手石区長としました。

その後、計 5 回の地区協議会と 4 回の住民説明会を開催し、津波対策についてソフト・ハードの両面から検討を行いました。この結果、竹麻地区手石区では、レベル 1 必要天端高（手石港側 T.P. +8.0m、小稲漁港側 T.P. +7.0m）で整備を行う方針となりましたが、竹麻地区湊区では、施設整備高については合意に至らず継続協議となりました。

このため、竹麻地区湊区では自主的に「弓ヶ浜防災対策検討委員会」を組織し、堤防の整備高に関する検討を進め、令和 4 年度末にその結果が役場に提出され、地区合意高 T.P. + 5.5m で整備を行う方針となりました。

・地区協議会

① 構成

会長	湊区長
副会長	手石区長
メンバー	<ul style="list-style-type: none"> ・対象自治会（湊区、手石区）の区長、区民 ・観光協会、漁業協同組合、商工会、伊豆太陽農業協同組合、消防団 ・南伊豆町（総務課、地域整備課） ・静岡県（下田土木事務所、賀茂振興局）
事務局	静岡県下田土木事務所企画検査課、南伊豆町地域整備課

② 開催状況（出席者に南伊豆町・静岡県関係者は含まない）

回	開催日 場所	出席者	概要
1	H27. 11. 11 湊コミュニティセンター	14 名	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の目的と津波対策検討会の進め方について ・地区における L1L2 津波高について
2	H28. 1. 18 湊コミュニティセンター	33 名	<ul style="list-style-type: none"> ・L1 津波に対する施設整備案について（ワークショップ）
3	H28. 7. 1 湊コミュニティセンター	26 名	<ul style="list-style-type: none"> ・L1 津波に対する施設整備案について（ワークショップ）
4	H29. 2. 22 湊区住民防災センター	51 名	<ul style="list-style-type: none"> ・避難対策・マップ案について
5	H29. 6. 28 手石公会堂	9 名	<ul style="list-style-type: none"> ・L1 津波対策について ・地区協議会での意見まとめ



第1回協議会風景



第2回協議会風景



第3回協議会風景



第4回協議会風景（手石区）



第5回協議会風景（湊区）



第5回協議会風景（手石区、小稲区）

・弓ヶ浜防災対策検討委員会

①構成 地元事業所の団体代表及び公募により諮問委員会のメンバーとした

②開催状況

回	日 時	内 容
第1回	令和4年10月2日 15:00	・委嘱、会長、副会長の選出 ・諮問 ・防潮堤建設及び防災について意見交換
第2回	令和4年11月7日 15:30	・安心、安全な暮らしについて意見交換 ・豊かな自然のある暮らしについて意見交換 ・防潮堤、防波堤の位置づけ ・構造物設置の問題、疑問、要望等について
第3回	令和4年12月5日 15:30	・構造物設置の問題、疑問、要望等について、行政機関からの回答（土木事務所、南伊豆町役場） ・回答を基にした対応の絞り込み ・答申書結論について
第4回	令和5年1月16日 15:30	・答申書結論について ・答申書付記について ・答申書の作成について
第5回	令和5年2月6日 15:00	・答申書詳細検討

【答申一結論】

湊区の弓ヶ浜では、津波浸水に時間的ゆとりを持たせると共に、高潮・台風災害に備える約1mの防潮堤（現況+1.0m=T.P.+5.5m）を建設する。

参2 南伊豆町竹麻地区避難地図



竹麻地区手石区（小稲）の避難地図

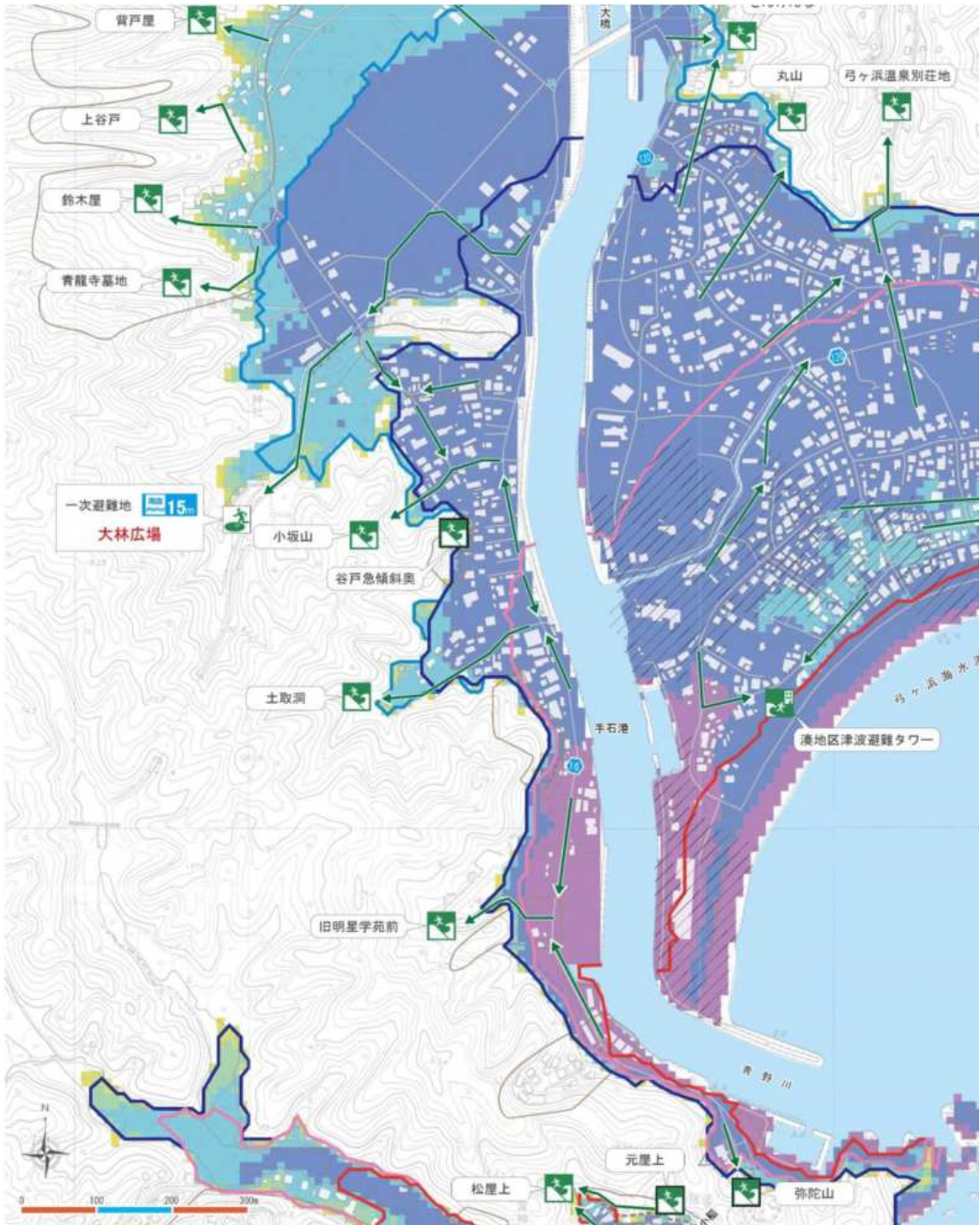
浸水深の目安及び危険度は下図に示すとおりです。あなたのお住まいや職場がどの程度浸水し、どのような危険があるのか確認して下さい。

浸水深の目安及び危険度

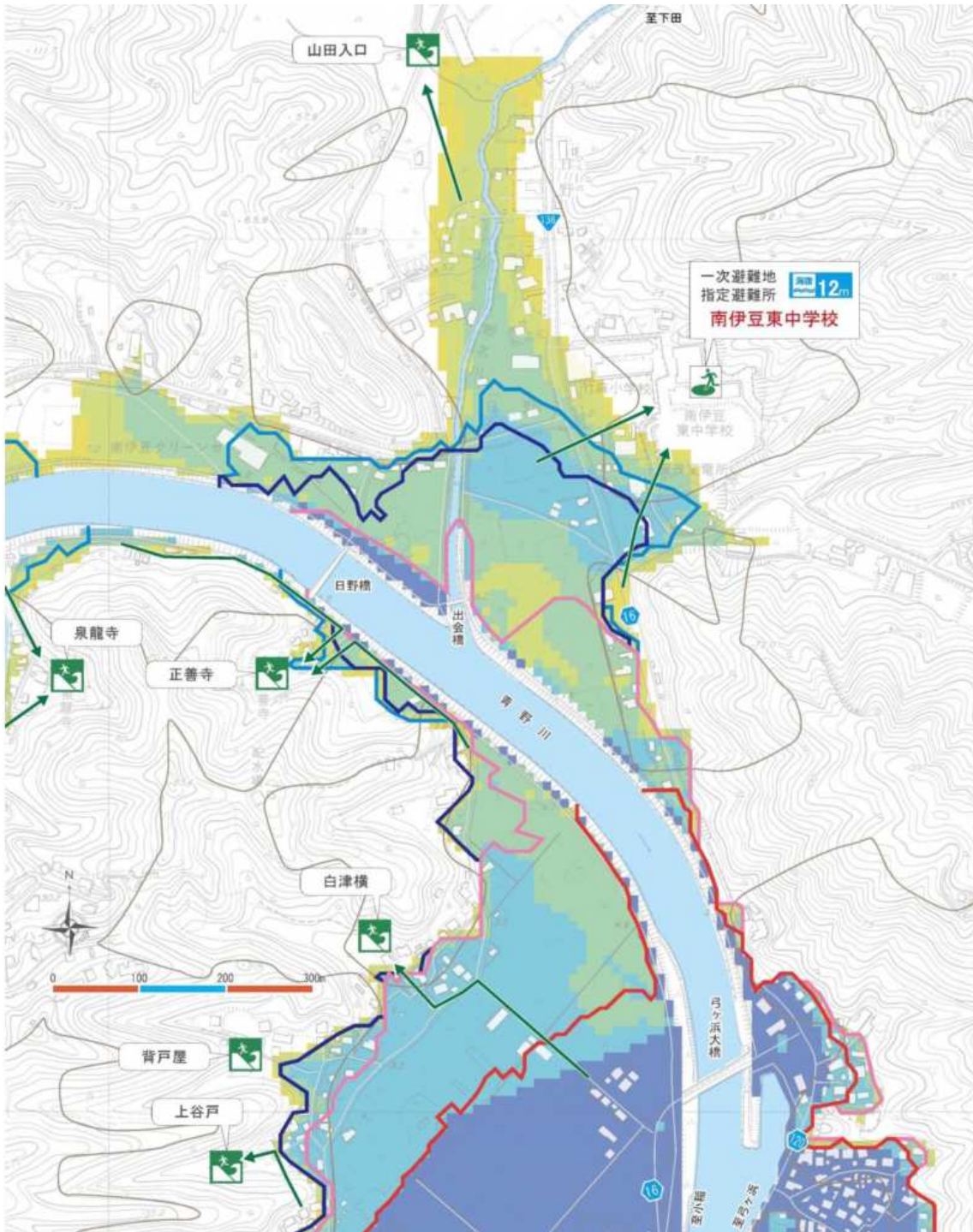
10m~	
5~10m	3階の軒下まで浸水する程度
2~5m	2階の軒下まで浸水する程度 (木造家屋は全面破壊)
1~2m	1階の軒下まで浸水する程度
30cm~1m	大人の腰までの高さ(人命に影響する恐れ)
1~30cm	大人のすねまでの高さ(歩行の自由が奪われる)

《凡例》

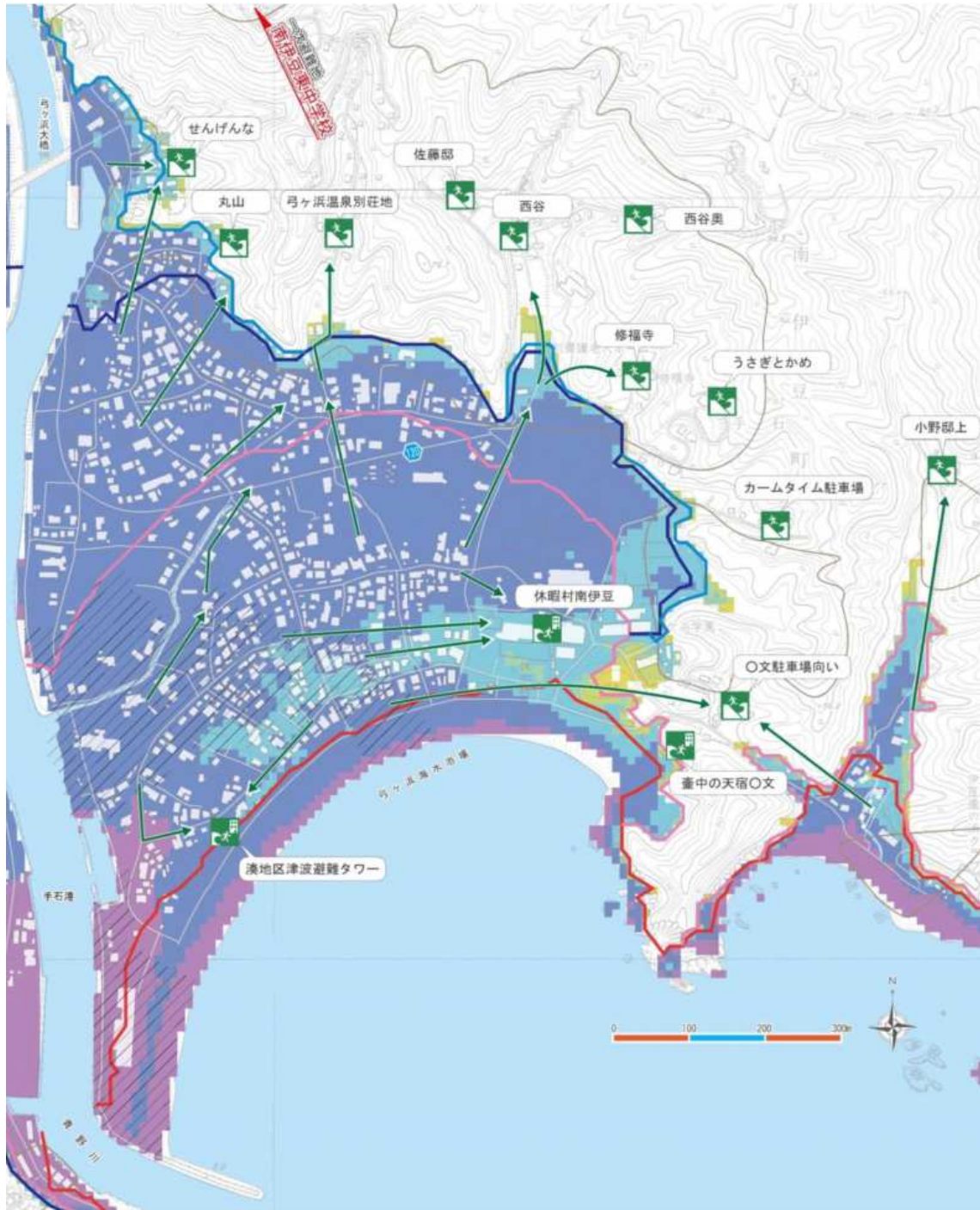
- 地震発生から約12分で浸水開始
- 地震発生から約13分で浸水開始
- 地震発生から約14分で浸水開始
- 地震発生から約15分で浸水開始
- /// 特に急いで避難するエリア
※5分で避難開始、1秒間に1m進む避難では危険があるエリア
- 🏠 一次避難地・指定避難所
- 🏞️ 高台
- 🏘️ 地域集合場所
- ➡️ 避難方向(メイン)
- ➡️ 避難方向(サブ)
※避難方向(メイン)で避難できない場合には、避難方向(サブ)で避難すること
- 🛡️ 砂防えん堤
- 🏠 かけ崩れ危険箇所・区域
- 🛡️ かけ崩れ防止施設



竹麻地区手石区の避難地図



竹麻地区湊区の避難地図



竹麻地区湊区の避難地図